

みんなどしどしセーフコミュニティ

秩父市では、世界基準の安心・安全なまちづくりを進める都市として、セーフコミュニティの国際認証を取得しました。今回は、自殺予防対策委員会の活動についてご紹介します。

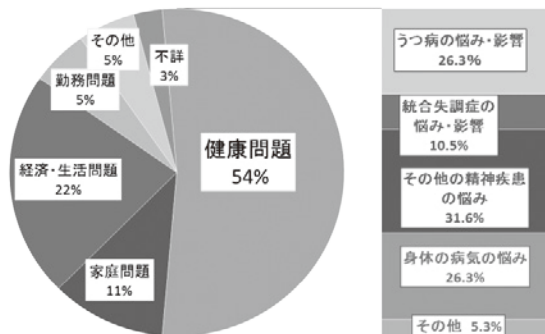
秩父市の自殺死亡率は、全国、埼玉県と比べてかなり高くなっています。秩父地域では以前から自殺予防に取り組んできましたが、自殺予防対策委員会では秩父市独自の取り組みを進めています。

自殺の原因

特に自殺者の多い40代・60代男性の自殺原因1位は健康問題、2位は経済・生活問題となつています。健康問題の中で最も多いのが

自殺原因割合
(40～60代男性2009年～2014年)

【図1】



橋に設置された標語入り看板

自殺の場所

市内における自殺の場所については、湖・河川等が25%を占めています。これは県全体と比べて、大きく異なっています。

市内に橋の数が多いことや、大

うつ病の悩みなどの精神障害、次いで身体障害となっており、さまざまな要因が絡んでいるとわかりました。【図1】

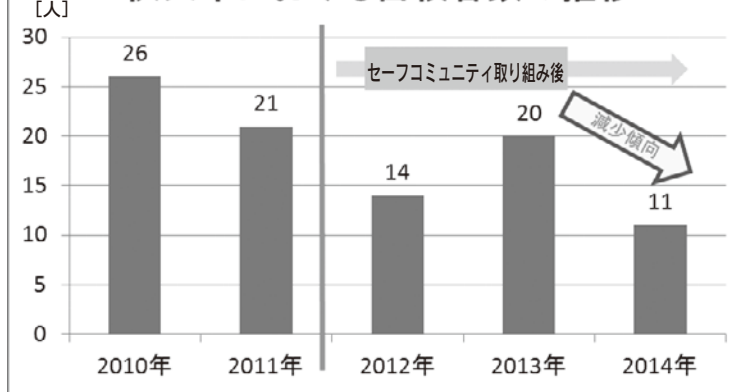
委員会では、市の自殺の現状・自殺に関する情報提供や対処法をテーマとした研修会の開催および関係機関と協力し、うつ病に対する理解を深めるとともに自殺予防の啓発を目的とした「自殺予防フォーラム」を開催しています。

きなダム湖が4つあることが関係していると考えられます。こうしたことを踏まえ、対策委員会では、橋への自殺予防標語入り看板の設置を進めています。地域の方々の意識を高めることで、自殺予防につながります。

自殺者は減少傾向に

セーフコミュニティを契機として自殺を地域全体の課題として捉え、予防に取り組む体制が整いました。また、アルコール問題やホットスポット対策など、新たな課題に対するアプローチも開始して

【図2】 秩父市における自殺者数の推移



います。

自殺者数は年によって増減はありますが、着実に減少傾向にあります。【図2】

今後も自殺者数の減少を目指して、地域と一体となった活動を推進していきます。

秩父保健センター

危機管理課 ☎22-10648
22-12206

「秩父市犯罪情報の住民への提供等に関する協定」を締結しました



2月12日(金)、秩父市と市内を管轄する警察署(秩父警察、小鹿野警察)、町会長協議会は、「秩父市犯罪情報の住民への提供等に関する協定」を締結しました。

この協定は、犯罪の重大性に応じた情報提供および注意喚起の方法を明記した内容で、今後この提供された情報をもとに、全町会で組織されている自主防災・防犯組織による防犯パトロール活動を強化するなど、地域の防犯活動に生かしていただきます。

問 危機管理課 ☎22-12206